

第2部

孤独・孤立対策について

講師…内閣府孤独・孤立対策推進室

参事官 村瀬 剛太氏

孤独・孤立とは

WHO(世界保健機関)の発表では、人と人とのつながりを持つ、持たないで、健康上のリスクに大きな違いがあると言われています。社会的孤独・孤立に苦しんでいる人は、病気のリスクがあるので

一般的に、「孤独」は、ひとりぼっちと感じる精神的な状態を指し、寂しいことという感情を含めて用いられることがあります。「孤立」は、社会とのつながりや助けのない又は少ない状態を指します。

「孤独」と「孤立」は密接に結びついていますが、「望まない孤独と孤立」を抱えている方々に、雑談できる相手と一緒に趣味を楽しむことがで

きる仲間、気の合う人など、日常にある「つながり」が必要とされています。

つながりづくりに向けて

日常にある「つながり」のために、例えば、イギリスの喫茶店では、「おしゃべりテーブル」と呼ばれる、コーヒを飲みながら、知らない人同士が喋るとい活動があります。

人は、孤独・孤立に陥ることにより、社会生活を送る上で、意欲の減退を招く可能性があるととも言われており、つながりづくりに向けて、毎日ではないけれど、たまには誰かと時間を過ごす機会を設けていくことは、ウェルビーイングの観点からも大切なことだと思われれます。

一般社団法人 ArtsAlive の活動

孤独・孤立対策を行っている取り組み例として、一般社団法人アーツアライブによる「アートリップ」活動を紹介いたします。

孤独・孤立について(背景)

背景

社会構造の変化(単身世帯の増加、働き方の多様化、インターネットの普及など)により、家族や地域、会社などにおける人との「つながり」が薄くなり、誰もが孤独・孤立状態に陥りやすい状況。

働き方の多様化
ワーキングプアの増加
企業福祉の縮小

過疎化や高齢化
地域組織の衰退

少子高齢化
単身世帯の増加

会社とのつながり
雇用の保障や
手厚い福利厚生

地域とのつながり
地域の互助組
織や支えあい

家族とのつながり
家族や親族など
による援助

この活動は、美術館や介護施設などで実施する、一般の方、中高生、障害を持つ方、認知症当事者と家族を対象としたグループ対話鑑賞プログラムです。

アートを通して孤独や孤立を防ぎ、初対面の人同士が友だちになる機会を作ったり、肩書きによることなく対話できる機会を作ったり、多様なつながりの場を提供することを目指す取り組みと耳にして

横浜市の老人クラブの
地域支え合いの活動について

「ゆるやかな」つながりによる見守り

老人クラブ活動の仲間同士の見守り

スポーツや趣味、ボランティア活動などに仲間が参加することも、互いに見守りにつながります。女性委員会では、「ゆるやかな見守り」を意識してすすめるために、「つながりサポーター養成講座」に取り組みます。

「友愛活動員(担当)」
による見守り

思いやりの気持ちや、暮らしの中で感じる気付きを大切に、近くにいる見守りが必要な一人暮らしの方(孤立リスクのある方=対象者)に寄り添います。

友愛活動委員会では、「孤立リスクのある高齢者を見守り、支える活動」に取り組んでいます。

一步先の
「見守り」活動へ…



おります。孤独・孤立対策に必要なこと、孤独・孤立対策は、ありとあらゆる分野で必要とされています。単発的な取り組みでなく、継続することが重要です。そういう意味で、つながりサポーターの普及を含め、この「つながりづくり」を一緒に進めていただきたいと思います。

つながりサポーター養成講座の受講を推奨します

横浜市老人クラブ連合会では、より多くの方々に「つながり」や「地域支え合い」の重要性をご理解いただくため、「老人クラブ」での緩やかな見守りを積極的に行っていただきたいと思っております。そして、孤独・孤立の問題についての知識を身につけ、出来る範囲で困っている人をサポートする「つながりサポーター」の養成講座の受講を推奨します。